

一般社団法人日本映像アーキビスト協会 2022 年度事業報告書

2022 年度の当協会の事業等について報告いたします。

1. 映像アーカイブに関する調査研究

● 公式ホームページの充実とコミュニケーションツールを用いた交流の試行

- (1) 各研究会(分科会)⇒コミュニケーションツールである Microsoft Teams を活用し、各会員が自発的に各種研究会を発足、運営可能とすべく活動を行う。映画保存に関する技術的なノウハウやベストプラクティスについて共有を行う研究会や、日本における映画・映像保存法成立の可能性を考える勉強会、ノンフィルムに関する情報交換を行うコミュニティ等の発足を検討。

本年度も、コロナ禍の影響で、事業全体をウェブ中心に展開した。コミュニケーションツールとして Microsoft Teams を活用して、「一般」「よもやま」チャンネルの他に、フィルム・アトラスなどの研究会チャンネルを設置したが、2023 年 4 月 12 日に無料版(クラシック)終了に伴い、新無料版に移行する。このことから、研究会チャンネルをどの様に展開するか、今後検討が必要。

- (2) オーラルヒストリー⇒本年度も当会もしくは会員が関わるイベント等の採録・公開を行う。また、映像アーカイブに携わる人々のオーラルヒストリーについては現在、対象者の検討を行っており、本年度から本格的にインタビューを始める。

本年度もコロナ禍により、対面形式の新たなインタビューの実施が難しかったため、開催にあたって協力した「映画の復元と保存に関するワークショップ 2021」の講演採録の作業を継続した。

- (3) 「ヒアリングによる日本タイピング史」のプロジェクトの協力、協会ホームページへの掲載

会員の郷田真理子さんによる「現像所技術者に聞くー日本タイピング技術史をまとめる試みー」を 2022 年 10 月 1 日に公開した。現在、第 2 回掲載に向け、編集中である。

- (4) IMAGICA-EMS との勉強会の一部公開

下記の勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できることー再発見するリリースプリントの価値ー」のガイダンス部分を、ホームページ上で公開した。

● セミナー、ワークショップの企画と実施の検討

昨年度中止となった、富士フィルムの見学会を 2022 年 9 月 5 日(月)に開催した。

また、IMAGICA-EMS との共催で、勉強会「映画フィルムを後世に伝えるために今できる

こと一再発見するリリースプリントの価値」を12月3日(土)にオンラインで行った。

● **アーカイブ・ツーリズムの企画と実施の検討**

本年度もアーカイブ機関の現場などへの見学を予定していたが、コロナ禍のため、実現できなかった。

2. 映像の文化的、芸術的、歴史的及び教育的価値に対する社会的認識ならびに関心の向上促進

● **基金設置を含めたファンドレイジングの方法の調査と検討**

本年度もファンドレイジングに関する調査や検討を行うことができなかった。

3. 映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力

● **映画の復元と保存に関するワークショップ 2021(仮称)への協力**

本年度は、「映画の復元と保存に関するワークショップ」が開催されなかった。また、「映像アーカイブ機関ならびに隣接機関との連携、協力」については、前述のIMAGICA-EMSとの共催で、勉強会を行った。

4. 映像アーカイブ、及び映像アーキビストの認知向上を目指す広報活動

● **ホームページ、Twitter を活用し、映像アーカイブの重要性、映像アーキビストの社会的認知を図る。非会員に向けたイベント開催も模索**

本年度から、本格的にホームページ、Twitter の活用を行った、非会員に向けたイベントはコロナ禍により、開催できなかった。

5. 2022年度定時総会の開催

本年度は、コロナ禍の影響で、オンラインによる総会開催(2022年6月25日)としたが、総会では、オンライン開催に関する定款変更、ならびに理事及び監事の選任、前年度の貸借対照表、損益計算書及び監査報告書の承認を得た。

また、同日にはイベント「JAMIA Annual Meeting 2022」(略称 JAM2022)を開催し、オンライン参加者とともに、「映像アーカイブこの1年」と題し、情報交換を行った。

6. その他

会員リストを会員限定で公開した。